金澤　史男　教授

金澤史男教授を偲ぶ

金澤史男教授は，2009年6月16日，経済学部の地方財政の講義終了直後に倒れられ，病院に運ばれましたが救命かなわず，帰らぬ人となりました．享年55歳という若さでの先生の突然の訃報に，多くの人が強い衝撃を受けたであろうことは，想像に難くありません．

先生は，1953年7月東京都台東区に生まれ，1977年3月東京大学経済学部を卒業され，その後，東京大学大学院経済学研究科博士課程，東京大学社会科学研究所助手などを経て，1985年4月に静岡大学人文学部の助教授として採用され，1990年4月に本学経済学部の地方財政担当の助教授として赴任されました．以来，ほぼ20年にわたり，本学の発展のために尽力されました．

本学に赴任されて以来の先生の活躍には目を見張るものがありました．2002年4月から04年3月まで経済学部長，2005年4月から07年3月まで大学院国際社会科学研究科長をそれぞれ務められ，亡くなられた時は本学の評議員，また地域実践教育研究センター長を併任しておられました．先生は数々の重要な仕事をなされましたが，なかでも重要なのは，大学院博士課程の創設に情熱を傾けられたことです．博士課程を創設することは社会科学系部局の悲願でありましたが，1996年に国際開発研究科として実を結び，99年にはこれを発展させて国際社会科学研究科の創設となりました．また，国立大学の法人化の前後に先生は経済学部長の要職にありましたが，法人化後の望ましい大学運営を願って，あらゆる重要な問題に関して発言されました．

他方で先生は，けっして大学という枠に閉じこもることなく，学外で多くの重要な仕事につかれました．国や自治体の審議会などはもとより，神奈川県では水源環境税の創設に関わり，また本学の地域実践教育研究センター長として，神奈川や横浜の地域再生プログラムの運営や都市再生モデルの構築に取り組まれました．学会では日本財政学会，日本地方財政学会の理事，常任理事をそれぞれ歴任され，学会の発展に寄与されました．また中国の大学などとの国際学術交流に尽力されました．

さらに逸することができないのは，先生の研究教育面における貢献です．先生は，日本の地方財政史，政府間財政関係の形成史に関する研究の権威でありました．それだけでなく，現代の日本財政や地方財政をめぐる諸問題について絶えず発言されるとともに，福祉国家論，新自由主義，公共性をめぐる問題，日本資本主義論といった，より大きな問題についても精力的に研究を進められました．これらの研究業績の重要部分は，先生の急逝後，研究者仲間が中心となって刊行された三冊の遺稿集，『近代日本地方財政史研究』，『福祉国家と政府間関係』，『自治と分権の歴史的文脈』の中に収められています．先生はまた学生や院生を大切にされ，懇切丁寧な指導に心がけられました．大学院の教え子を中心に『現代の公共事業』，『公私分担と公共政策』などの専門書を編まれるとともに，『財政学』，『現代の経済政策』など学生や市民のための教科書づくりに尽力されたことも特筆されます．

このように先生は，教育，研究，学内外での仕事などのすべてにわたって，いかんなく能力を発揮されました．時代の文脈を見抜く洞察力，経済の段階的な変化を的確に分析し，国や経済政策の命運を切り開いていこうという強い使命感，経済学者としての大きな存在感と類い稀なる行政能力，これらが先生の大きな特質であったことは，おそらく衆目の一致するところでしょう．先生は長寿を全うされたわけでありませんが，人生を全うされたのではないかと思います．

先生のご冥福を心からお祈りいたします．

2010年5月

経済学部長　上川孝夫